



Japan Heritage

日本遺産認定

相良 700 年が生んだ保守と進取の文化

～ 日本でもっとも豊かな隠れ里 － 人吉球磨 －

人吉球磨地域は、鎌倉時代から明治維新までの約 700 年間にわたり相良氏が治めた全国でもめずらしい地域です。

相良氏はウンサンカルタや球磨焼酎など民衆の文化を尊重しつつ、寺社に都の建築様式を用いるなど新たな技術も取り入れ、国宝青井阿蘇神社など歴史的・文化的価値が高い社寺や仏像が信仰の対象として大切に受け継がれてきました。

この「相良 700 年」に受け継がれた文化財や風習、地域の歴史を結びつけて紡がれた物語が、日本の文化・伝統の魅力を伝えるものとして日本遺産に認定されました。



▲国宝 青井阿蘇神社



▲国指定重要無形民俗文化財 球磨神楽

日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語る「ストーリー」を認定するというもので、文化庁が平成 27 年度から創設した制度です。

文化財そのものが認定の対象となるわけではなく、ストーリーを語る上で不可欠な有形・無形の文化財群を地域主体で整備・活用し、国内外に発信することで、観光振興や地域の活性化を図ることが目的となっています。

人吉・球磨 まるごと日本遺産

あっぱれ！



人吉球磨の日本遺産ストーリー

人吉球磨の領主相良氏は、急峻な九州山地に囲まれた地の利を生かして外敵の侵入を拒み、日本史上稀な「相良700年」と称される長きにわたる統治を行った。

その中で領主から民衆までが一体となったまちづくりの精神が形成され、社寺や仏像群、神楽等をともに信仰し、楽しみ、守る文化が育まれた。同時に進取の精神をもってしたたかに外来の文化を吸収し、独自の食文化や遊戯、交通網が整えられた。

保守と進取、双方の精神から昇華された文化の証が集中して現存している地域は他になく、日本文化の縮図を今に見ることができる地域であり、司馬遼太郎はこの地を「日本でもっとも豊かな隠れ里」と記している。



ストーリーを構成する文化財群

相良700年の文化財群。これら人吉球磨を代表する41の文化財のほかに、中世から護られてきた古社寺や仏像などの仏教美術が数多く残されています。

球磨村

神瀬住吉神社	航海の神として、球磨川を行き来する藩主や船頭たちの信仰を集めてきた神社。
--------	--------------------------------------



▲山田大王神社

山江村

城山観音堂の十一面觀音菩薩像	戦国期の相良氏当主が造らせた仏像で、周辺住民が代々大切にしてきた仏様。
高寺院	相良氏が滅ぼした矢瀬氏による草創ながら、代々の相良氏が手厚く保護した寺院。
山田大王神社	相良氏が、滅ぼした平川氏の怨霊鎮魂のために建立した神社。



▲十島菅原神社

五木村

東俣阿蘇神社	江戸中期、五木村の民衆との結びつきを重視する藩主が、名代による代参を続けた神社。
--------	--



▲願成寺

相良村

雨宮神社	雨乞いに靈験があるとして、領主・民衆から信仰を集めた神社。戦国期の雨乞いのエピソードが特に有名。
十島菅原神社	この地域で最大の天神様として、領主から民衆まで信仰を集めた神社。
井沢熊野座神社	16代相良長唯(義滋)により再興された神社。民謡「球磨の六調子」にも歌われるほど名所として、民衆に親しまれた神社。



相良家墓地

▼ウンスンカルタ



人吉市

井口八幡神社	領主相良氏の「戦の神」として代々保護を受けてきた神社。
人吉温泉	戦国時代の12代相良為続が湯治したという記録が残る人吉球磨で最古の温泉があり、民衆も疲れを癒した。
青井阿蘇神社とおくんち祭	領主相良氏の保護を受け、江戸時代には人吉藩領内の惣鎮守として藩主・民衆の信仰を集めた神社。秋の大祭は「おくんち祭」と呼ばれ、多くの人々が参加・見物する郡内一大行事。
ウンスンカルタ	江戸時代中期に幕府に禁制され廃れた中で、全国で唯一、人吉藩領のみ遊戯法が継承された。現在は人吉市の民間団体が継承する。
老神神社	領主相良氏の氏神として保護され、周辺住民から「老神さん」として親しまれ信仰を集める神社。
人吉城跡	球磨郡を統一した相良氏が、戦国期以降、江戸時代を通じて、代々居城とした城。年に1度、おくんち祭の時には城内を一般に開放し、祭り・芸能を庶民と共に楽しんだ。
大信寺	22代相良頼喬母の菩提寺。この母が帝王切開の末、頼喬を出産し亡くなったと伝わり、後に安産を願う民衆の信仰を集めた。
願成寺と相良家墓地	領主相良氏の菩提寺の第一で、江戸時代は郡内の宗教世界を束ねる地位にあった格式高い寺院。裏に代々当主の墓が集められ、藩主の命日には庶民の参拝も盛んに行われた。
岩屋熊野座神社	領主相良氏による度々の修造が行われた神社。熊野信仰の広がりとともに民衆の信仰を集めた。

錦町

木本神宮	相良氏が滅ぼした平川氏の創建ながら、相良氏代々が手厚く保護し、民衆に守られてきた神社。
------	---

あさぎり町

勝福寺関連文化財	勝福寺は相良氏入国以前の在地豪族の菩提寺ながら、相良氏による保護を受け続けた寺院。
須恵阿蘇釈迦堂	在地豪族の須恵氏が創建し、相良氏代々が保護した。釈迦三尊像が民衆に大切に守られ続けている。
山上八幡神社	戦国時代に滅ぼした上村氏を供養するために、安土桃山時代になり相良氏が建立した神社。



▲勝福寺

多良木町

王宮神社	多良木地域の鎮守として、相良氏の手厚い保護を受け民衆の信仰を集めた神社。萱葺屋根の楼門は日本最古級。
青蓮寺阿弥陀堂	鎌倉時代以降の多良木相良氏代々の菩提寺で、民衆の信仰を集めめた。郡内に残る中世的な景観の代表的な場所の一つ。
太田家住宅	江戸時代、藩の許可を受け焼酎作りを行っていた民家。焼酎文化の盛行を示す。
多良木相良氏関係史跡	相良氏が鎌倉時代に下向した後、在地に受け入れられるまで苦心した時期の館跡と、その当時、民衆のために開削した灌漑用水などの史跡
久米治頼神社	当主に反乱を起こし滅ぼされた相良治頼とその母を供養するため、戦国時代に建立された神社。
楓木大師堂の弘法大師像	郡内における民衆の大師信仰の広まりを受け、室町時代前期に相良氏を願主として造られたもの。



▲王宮神社



▲青蓮寺阿弥陀堂

ストーリーを構成する文化財群

湯前町

城泉寺阿弥陀堂	在地豪族久米氏が建立したといわれるが、その後も相良氏や民衆の厚い保護・信仰を受けて、堂舎と本尊、石塔群が中世の景観を今に伝える。
御大師堂	郡内で領主から民衆まで広まっていた大師信仰を受け、大切に守られてきた大師堂と御大師様。



▲城泉寺阿弥陀堂

水上村

生善院觀音堂	人吉藩化け猫騒動にちなむ觀音堂。市房神社参詣時には藩主が立ち寄った。「狛猫」が参拝客を迎える。
市房神社	郡内最高峰の市房山を信仰の対象とした神社。郡鎮守であり、歴代の相良氏を始め、民衆も「オタケサン参り」と呼んでしばしば参詣した。



▲生善院觀音堂

人吉球磨に広がる相良 700 年の文化財群

球磨焼酎	人吉球磨地域において、江戸時代では貴重だった米を主原料としての醸造が相良氏によって認められ、庶民に至るまで愛飲された酒。450 年以上の歴史を誇る。
百太郎溝と幸野溝	人吉藩領内の米生産を支えた長大な灌漑用水。藩や地域住民により長い年月をかけ開削事業が行われ難工事の末に完成した、現役の用水である。
人吉球磨の民謡	人吉球磨地域の民衆に長く唄われてきた民謡は、人々が集まると誰ともなく自然と唄われ始める。特に宴会で焼酎が始まると終わりを知らない。
焼酎墓	酒好きの人間であったことを思わせる戒名や、墓石の笠が盃であるなど、焼酎文化を伝える墓。
球磨拳	じゃんけんのルーツとも言われる拳遊び。宴会の余興としては、勝負に負けた方が焼酎を飲むのだが、焼酎飲みたさにわざと負ける者もいたとか。
庚申信仰と庚申塔	戦国期以降に流行する庚申信仰に係る庚申塔。他地域のものより巨大な庚申塔が、数多く人吉球磨地域に現存している。
相良三十三観音めぐり	人吉藩家老井口氏により藩内に三十三観音が選定され、御詠歌が作られて以後、各札所は地域住民の精神的な拠り所として信仰を集め続けている。
球磨神楽	青井阿蘇神社おくんち祭の宵宮奉納を皮切りに郡内 43 神社で奉納されてきた神楽。相良氏の厚い保護を受けた神楽の見物は民衆の娯楽でもあった。
臼太鼓踊り	相良氏による武道奨励・士気鼓舞を目的に始められたとされる踊り。領民によって長く伝承され、現在も郡内各地で踊り続けられている。
球磨川	相良氏は、水量が豊富な球磨川を交通および米や木材などの物資の輸送に大いに利用した。明治時代に入り鉄道運輸に取って代わられるが、水運の伝統は、現在の「観光川下り」に受け継がれている。

▼人吉球磨の臼太鼓踊り



球磨焼酎



▼相良三十三観音めぐり



問い合わせ先

球磨地域文化財広域連携協議会（事務局 人吉市教育委員会 歴史遺産課）

〒868-8601 熊本県人吉市麓町 16 番地（人吉城歴史館内）

TEL 0966-22-2324 FAX 0966-22-2134 e-mail rekishiisan@city.hitoyoshi.lg.jp